



豆本の世界～宝石入りの豆本など～

豆本とは、てのひらに載るくらいの小さな本のことをいいます。
主に昭和時代、豆本愛好家が喜ぶような、趣向を凝らした豆本を専門に制作していた専門出版社がたくさんありました。
今回は、豆本の魅力についてのお話とともに、木版多色刷りで可愛い「いせ辰」のお伽話豆本、宮尾登美子さん着用の着物を表紙に使った未来工房の豆本、純金表紙や宝石入りの豆本がある創作豆本工房、究極の書物アート「武井武雄刊本作品」の超貴重本から、ゴブラン織の『笛を吹く城』や螺鈿(らでん)細工の美しい『人魚と嫦娥(じょうが)』、工芸的に超豪華な金箔装飾を施したフランスの小型本など、限定出版された豆本を中心に、美しい豆本をたくさんご覧に入れます。



講師 田中 栞さん(日本豆本協会会長)

東京製本倶楽部会員、日本出版学会会員、日本校正者クラブ会員 他多数
著書に『古本屋の女房』(平凡社)、『書肆ユリイカの本』(青土社) など

日時 令和6年 2月12日(月・振替休日)

午後2時～3時30分

※講演会終了後、30分ほど講師との自由歓談あり

会場 富士市立西図書館 多目的室

申込方法

令和6年1月10日(水)午前9時から受付けます。

直接または電話で、富士市立西図書館までお申し込みください。

先着順 定員 30名 (電話 0545-64-2110)

 参加者に、日本豆本協会会報「豆本手帳」(組み立てると豆本になる付録つき)と、豆本展示会同時開催の深澤庄蔵さんについて、講師が執筆した記事コピーを差し上げます。

▶▶豆本展示会 同時開催のお知らせ▶▶

令和6年2月1日(木)～2月18日(日)まで、地元の愛書家 深澤庄蔵氏より富士市立西図書館に寄贈された豆本の展示会を同時開催します。是非ご覧ください。